



鈴木 寿紀さん（DXスクール受講生）

# 経営判断としてのシステム導入

缶製造機械のオーダーメイド製造・販売を行う東京堂機械。鈴木社長は、長年のアナログ管理の危機感から自身でシステムの内製化に挑むも壁に直面。経営者としてあらためてDXを捉え直し、システム導入の経営判断に至りました。

## 周囲の企業の動向や事例を知る

経営者として、世の中の企業がどの程度デジタル化を進めているのかを知ることは重要だと思っています。

テレビや経済紙で報じられる大企業の事例は「別世界の事」と感じますが、周囲の中小企業の事例を知ること、自社にとって何が必要かを見極めるため、まずは他社の動向を知るべく、DXスクールへの参加を決めました。

また、長年の課題である「数字の不透明さ」の解消も目的としていました。

## DX内製化の理想とのギャップに向き合う現実的DX戦略

以前から課題となっていたのが、機械生産にかかるコストの不透明さです。社員に紙の業務日報の提出を求め、社長自ら部品代や工数を集計していましたが、次第に未提出が増え、手作業での管理にも限界が見えてきました。

そこで、生産管理システムの導入を決意しました。このシステムは部品調達サイトと連携しており、生産コストの

可視化に加え、発注業務の効率化も期待できます。

「紙の方が早い」という現場の根強い文化はあるものの、まずはシステムを導入したことで「経営の向上に繋がる」ことを実感してもらい、段階的にDXを進めていければと考えています。

### DX事例

#### 生産管理システムの導入

機械生産にかかるコストが不透明

生産管理システムの導入により  
生産コストの可視化・発注の効率化

## 利益を現場に還元、社員の意識改革を促す好循環を



次は日報の電子化に取り組みたいです。紙の日報が形骸化した反省を生かし、スマートフォン等で現場が負担なく入力できる仕組みを検討しています。

また、生産管理システムで蓄

積したデータをBIツールで分析し、勘に頼らない経営判断や効率的な生産計画の策定に繋がりたいと考えています。

最終的にはデータ活用によって得られた利益を現場に還元し、社員の意識改革を促す好循環を目指しています。

## ふじえだDXリーダーズ プロフィール

- 【氏名】 鈴木 寿紀（すずき としのり）  
 【所属・担当】 東京堂機械株式会社 / 代表取締役社長  
 【IT経歴】 社長の製造業・ITに関する原点は「ものづくりへの興味」から。社長就任後は、社内のアナログ管理への危機感から自らExcelを駆使。現在は、現実的視点で会社のDX推進に取り組んでいる。

Webサイト



活用している  
DXツール

- ・生産管理システム (TECHS)
- ・Microsoft Excel
- ・Microsoft Access